

試験報告書

テイストテクノロジー株式会社
〒169-0051東京都新宿区西早稲田1-2-10
西早稲田MOハウス103
TEL 03-5155-6671 / FAX 03-5155-6672

報告日 2005年 8月 8日

以下、報告いたします。

責任者	担当者

評価品目	ヘルスウォーター (M)
数量	5ヶ

a) 試験目的

1. ヘルスウォーター (陶器の器) 使用による変化を記述的試験法によって風味特性を記述・表現する。

b) 試料を規定するための全情報

(ア) 試料数

- ・オーカット社ヘルスウォーター水飲み用ボウル (M)
- ・キャンドウ社販売の陶器

(イ) 内容物

- ・花王 ヘルシア緑茶 1000ML
- ・トロピカーナ グレープフルーツジュース (100%) 1000ML

(ウ) 対照試料・見本の有無

- ・見本は無し

c) 試験条件

(ア) 評価者数および評価者のレベル

10名 (Selected Assessor Class: ISO8586-1)

選抜・訓練について

- ・弊社「TT式標準味覚テスト」にて選抜されたパネル。
- ・評点法のトレーニングを終了。

(イ) 試験回数

3回 (本テスト: 同日1セッション × 3回)

(ウ) 試験環境

弊社官能評価室 (室温25 ± 2、空調あり、ブース、蛍光灯下)

(エ) 試料の調製条件

1. 評価実施の12時間前に両器にお茶とジュースを移し、ラップして冷蔵庫保管
2. テスト30分前に紙コップへ充填して待機。
3. 試料の呈示は、3桁のランダムコードを貼付 (セッションごとに番号を変更)

	ヘルシア緑茶	100% グレープフルーツ ジュース
ヘルス ウォーター (12h)		
陶器 (12h)		

(オ)試験手順

1. セッションの説明 (大まかな流れ、諸注意、トイレ利用など)
2. 評価シートの配布
3. 教示
4. 試料の配布

【試料提示】

同じ飲料を続けて評価するため、A組(お茶)、B組(ジュース)に分け、2組をランダムに割り当て、さらに組内(器の違い)をランダムに割り当てた。

d) 結果及びその統計的解釈(検定方法及び検定結果)

A. 分析手順および解析手法

1. マッピングには属性ごとの平均値を使用し、主成分分析によって記述する。

B. 分析ツール

ハードウェア IBM ThinkPadX22(OS:WIN2000)
ソフトウェア MS EXCEL+アドイン(エスミ社)
SPSS 13.0J

C. 結果および考察

1. 結果および考察

【試料番号】

試料 : ヘルスウォーター(12h): 緑茶
試料 : ヘルスウォーター(12h): グレープフルーツジュース
試料 : 陶器(12hr): 緑茶
試料 : 陶器(12hr): グレープフルーツジュース

【主成分分析】

固有値

主成分No.	固有値	寄与率(%)	累積(%)
1	22.84	67.18	67.18
2	7.14	20.99	88.17

固有ベクトル

	主成分 1	主成分 2
まろやか	-0.0260	-0.3758
刺激のある	-0.3054	0.0645
こくがある	0.2383	0.3050
にがい	0.3124	-0.0285
甘い	-0.1864	0.3043
しぶい	0.2476	-0.2729
果実味	-0.3096	0.0973
地味な	0.2640	-0.2439
きめ細やかな	0.0527	-0.4275
きめあらい	-0.1061	0.4316
しつこい	0.2944	0.1772
上品	-0.2481	-0.2504
はなやか	-0.2850	-0.1455
清涼味	-0.3151	-0.0594
新鮮	-0.2602	-0.0187
人工的	-0.2821	-0.1913

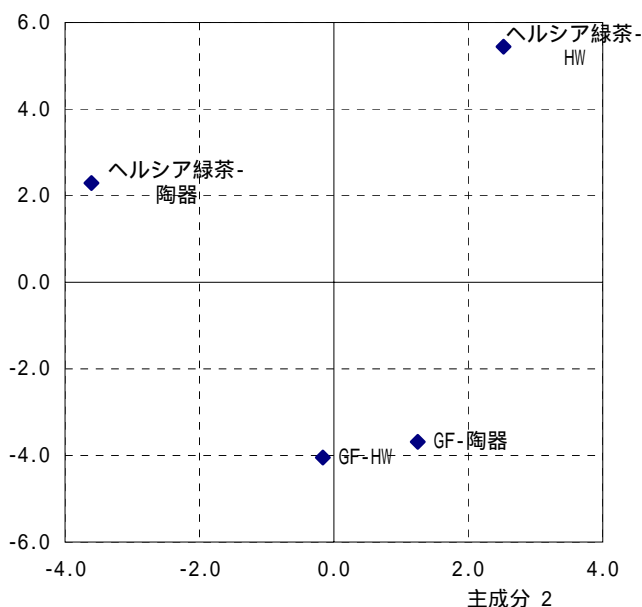
0.2|より大きい項目に網掛け

主成分得点の基準化

	主成分 1	主成分 2
GF-HW	-4.0492	-0.1639
GF-陶器	-3.6844	1.2465
ヘルシア緑茶-HW	5.4431	2.5235
ヘルシア緑茶-陶器	2.2906	-3.6061

主成分 1

主成分得点



【考察】

2品目について風味特性の変化の方向は第二主成分に並行しており、第二主成分得点の増減となって現れている。このことから、ヘルスウォーターの使用は第二主成分の属性に影響を与えていると推測される。

また変化量は、第一主成分の得点が高いほど変化量が大きい傾向が見られた。

e) 規格の引用

JISZ9080

6.4分析型試験法または記述的試験法

7 試験方法の詳細

7.1 一般

7.6 製品を分類するために順序尺度を用いる試験法

f) 適用規格からの逸脱点

用語はJISZ8144で規定されているが、コミュニケーション向上のため、必要な語彙においては独自の表現を使用した。

(例) JIS用語「におい」「匂」など

g) 試験監督者の氏名

平沼孝太(弊社センサリープロフェッショナル)

h) 試験の日時

本テスト(7/25)